

## 瀬戸内文化研究会だより創刊号 (2015年春号)

2015年3月9日発行 文責・内海清慈

瀬戸内文化研究会事務局：〒792-0831新居浜市西連寺町1-9-8 (内海宅)

☎0897-44-5885

メール：[setobun@mte.biglobe.ne.jp](mailto:setobun@mte.biglobe.ne.jp)

瀬戸内文化研究会は去る1月19日で、設立1周年を迎えました。

月一回程度の例会を開きつつ、ここまでこれたことをとてもうれしく思うとともに、会の趣旨に賛同して頂き、会を支えて下さった人達に心から感謝申し上げます。

これからは、月一回の例会だけでなく、

1月18日、例会の風景

現地で様々な活動をされている方と

交流を持ちつつ、瀬戸内海の歴史や文化の魅力を掘り起し発信していける場でありたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。

この会への入会、このたよりへの投稿、大歓迎です。



(連載) 夢の峠の日本史・便り版①

筆・「夢野かける」こと内海清慈

このコーナーは、ゆくゆくは、会の方たち等に投稿して頂いたものを掲載していきたいと思うが、しばらくは私の書いたものでご了承いただきたい。まず最初に私の瀬戸内の歴史と文化への思いのようなものを書いてみたい。

「瀬戸内海賊物語」という映画が上映されたり、和田竜さんの「村上海賊の娘」という本が本屋大賞を受賞されたことで、瀬戸内の歴史と文化ということでは、空前の海賊ブームと言えるかもしれない。

しかし、私は、今日海外で旅客船を襲って略奪行為を繰り返す海賊は別として、信長秀吉の時代の頃まで「海賊」と呼ばれた人達というのは、海を生業としていた人達(漁師さんや船乗りさん、塩を作っていた人達)が、武力に訴えた時に、それを討伐する側の人達や武力に訴えられた人達から「海賊」と呼ばれていたのに過ぎないと考えているので、余り海賊海賊というのは、海に生きてきた人たちに極悪人のイメージを押し付けることとなるので反対である(村上氏の末裔の方も、実際そのように蔑まれてきて困ったと、聞いている)。

では、どう呼べば良いか。私は「海族」と呼ぶことを提案したい。太古の昔の海人族の流れを汲む瀬戸内海の海に生きる人達のことを「海族」と呼び、例会等で色々な事例を紹介していきたいと思っている今日この頃である。